

動物応用科学科 カリキュラムマップ 平成27年度～平成30年度[A15000～A18000番台]入学者適用

獣医学部の理念・目的

獣医学部は、幅広い獣医学及び動物応用科学教育を行い、生命と福祉に係る科学者としての責任感に基づいて、社会的使命を正しく遂行し得る獣医師及び動物科学技術者を育成するとの理念に基づき、社会より与えられた責任に対して応えられ、かつ、国際的視野をもつことができる人材を養成することを目的とする。

動物応用科学科の目的

獣医学部の理念・目的に基づき、動物応用科学科では、動物にかかわる生命科学を基盤として、人と動物のより良い関係を学び、人と動物の共生を目指して、遺伝子レベルから生態系レベルに至る動物の保有する諸機能を人間生活に安全かつ効果的に活用するための知識と技術を教授し、人と動物にかかわる諸分野で活躍できる専門技術を備えた人材を養成することを目的とする。

動物応用科学科の3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学科の定めた教育課程に在籍し、本学科の目的に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、演習や実習、フィールド・ワークや卒業論文作成等の科目が含まれる。この卒業要件を満たすことで、次のような人物が育成されることを目標とする。

- (1) 社会から求められる幅広い知識、教養と高い社会倫理を習得した人物
- (2) 社会から求められる語学力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を習得した人物
- (3) 動物応用科学の領域の特性、その社会的責任、また動物応用科学の知識と技術を基に人間社会への貢献に寄与する人物
- (4) 動物応用科学における最新の科学技術に立脚した生命科学と社会の発展に貢献する、論理的で科学的な思考を習得した人物

2. カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

動物生命科学コースでは、分子、細胞、組織、器官、個体及び生態系と様々な段階における生命現象について、その機能を解析し、動物資源の利用・開発とその保全・増殖並びに人と動物に対する安全の観点から学際的な分野を含む広範な動物生命科学の総合的な知識と技術、バイオテクノロジーの多様な応用領域について幅広い知識と技術を身に付けた人材の育成を目標とする。

動物人間関係学コースでは、自然科学と人文科学・社会科学の境界領域の学問分野として、すべての動物を対象に人と動物のより良い関係を学び、動物と人の健康・福祉・教育への貢献、また人と野生動物とのより良い関係及び野生動物の生息地管理などについて幅広い知識を備えた人材の育成を目標とする。

このような基本方針に基づき、以下のような特徴あるカリキュラムを用意した。

- (1) 動物科学の基礎学力の向上を起点とし、2年次までに動物応用科学が目指す人間社会と動物とのより良い共利共生につながる幅広い教育科目群を配当した。1年次前期から生物学、化学、生態学などの科目配当で基礎学力を身に付け、その後段階的に専門基礎科目を配当し、動物の形態・機能、動物の特性及び基本的な病態について教育する。また、本学科の全教員による動物応用科学概論、基礎ゼミなどを通じて、動物応用科学の広がりや認識し、その中で自らの修学意欲を高める教育を行っている。
- (2) 3年次以降においては、拡大・深化した動物応用科学の諸領域を動物の生命活動とその資源の利用・開発にかかわる動物生命科学コースと、人と動物のより良い共利共生関係を目指す動物人間関係学コースの2コースの教育科目を設けた。動物生命科学コースでは、遺伝子から、細胞、組織・臓器、微生物、個体、群集、生態系までの種々の段階における生命現象を、保全・増殖、機能解析、利用・開発並びに人と動物に対する安全の観点から、分子から個体までの多様なレベルで総合的に学ぶ。動物人間関係学コースでは、伴侶動物、介在動物、野生動物を対象に、人の福祉や教育の現場に活用できるような、これらの動物の特性とその応用及び人と動物と環境の共生について総合的に学ぶ。
- (3) 3年次には、卒業論文や専門ゼミによってそれぞれの領域における動物応用科学の専門性の追求と、それを基礎とした人間社会への貢献の在り方を学ぶ。具体的には、社会最先端の実験手法、それを基にした動物機能性製品や新たな動物飼育法、社会調査、フィールド・ワークの実場面を体験し、そのデータ解析やレポート作成などを通じて、最新の研究情報を社会へ発信する能力、逆に社会ニーズに対応するための問題発見・解決能力を兼ね備える人材の教育を目指す。

3. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

本学科の目的を理解し、自ら学ぶ姿勢を持ち、本学での学習を通して人間と動物と社会の接点で通用するキャリアを身に付け、動物応用科学の諸領域で活躍したいという強い意志と意欲を持った人物を募集する。なかでも次のような人物を求めている。

- (1) 問題意識を持ちチャレンジ精神が旺盛である人
- (2) リーダーシップと協調性を有し、動物応用科学の社会的使命をよく認識している人

4. 学士力

- (1) 知識・理解：専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。
 - ① 多文化・異文化に関する知識の理解。
 - ② 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解。
- (2) 汎用的技能：知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能。
 - ① コミュニケーション・スキル：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - ② 数量的スキル：自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
 - ③ 情報リテラシー：情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
 - ④ 論理的思考力：情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
 - ⑤ 問題解決力：問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
- (3) 態度・志向性
 - ① 自己管理能力：自らを律して行動できる。
 - ② チームワーク、リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
 - ③ 倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
 - ④ 市民としての社会的責任：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - ⑤ 生涯学習力：卒業後も自律・自立して学習できる。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。

動物応用科学科 カリキュラムマップ 平成27年度～平成30年度[A15000～A18000番台]入学者適用

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|----------------|--------------|----|----|-----|-----|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| 基礎 教育 科目 | 生命・環境倫理学 | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・生命(医療)分野、環境分野での倫理的課題を具体的に理解し、説明できる。 ・倫理的な問題を掘り起こし、そこでの課題を理解し、説明できる。 ・生命・環境問題の科学・技術的、政治的、経済的解決を考えるための哲学的思考を理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | | | ◎ | | | |
| | 心理学 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・自己理解を深めるとともに人のこころや行動を理解することで、円滑な対人関係が築けるようになる。 ・人の心理現象や行動について科学的知識を持つことで、日常生活での様々なストレスや対人的トラブルにうまく対処できるような応用的スキルを身につけることができる。 | ◎ | ○ | | | ◎ | ○ | | |
| | 世界文化史 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・ヨーロッパから日本にわたる歴史の流れを理解し、説明できる。 ・文化とそれの一端を担う芸術等への洞察を深め、説明できる。 ・文化事象と人間社会との関係について意見提示をできる。 | ◎ | | △ | △ | ◎ | △ | △ | |
| | 経済学 | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・現代社会を生きる上で経済学が欠かせないことを理解し、説明できる。 ・経済学の基本概念を理解し、説明できる。 ・経済事情に関して自分で新聞記事を理解し説明できる。 ・自然科学と社会科学の方法論の違いを理解し説明できる。 | ◎ | ○ | △ | △ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 法律学・政治学 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・法学・政治学の基礎事項を理解し、説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | 現代社会学 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・死とは何かについて考えると共に生命の尊さを理解し、倫理観について理解し、説明できる。 ・人と動物の様々な関わり方について理解し、社会のニーズの変化に対応できる。 ・家族の多様な形態や変遷について国内外のデータ比較を通じ、現代社会における問題解決能力が身につく、実践できる。 | | | ○ | ◎ | ○ | ○ | △ | △ |
| | ライフサイエンスの数学 | 1 | 前期 | 2 | 基礎系 | ・行列およびベクトルについて理解し、行列の計算ができる。 ・行列を利用して連立一次方程式を解くことができる。 ・種々のグラフについて理解し、説明できる。 | ◎ | | | ○ | ◎ | | | ○ |
| | ライフサイエンスの物理学 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | 力学、熱、波動、電気の基本概念や基本法則を説明できる。 科学的思考ができる。 | ◎ | ○ | | | ◎ | ○ | | |
| | 化学 | 1 | 前期 | 2 | 基礎系 | ・化学変化を量的に取り扱うことができるようになる。 ・化学反応がおこるしくみを理解し、エネルギーとの関連性を説明できる。 ・生体内の化学反応が効率よく進行するしくみについて説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | 有機化学 | 1 | 後期 | 2 | 基礎系 | ・有機化合物の分子構造と性質について、グループごとにその特徴を説明できる。 ・代表的な化合物の構造式、反応式を書くことができる。 ・生体に存在する有機化合物である脂質、アミノ酸、糖類について、構造や性質を説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | 生物学 | 1 | 前期 | 2 | 基礎系 | ・生体内の高分子から個体の恒常性維持機構までの専門課程に必要な生物学の基礎的な知識が身につく、説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | ○ |
| | 生態学 | 1 | 後期 | 2 | 基礎系 | ・生物界の進化の機構やその過程で生物が獲得してきた生理生態学的適応や地球環境の保全に関する基礎的な知識が身につく、説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | ○ |
| | 地球共生論 | 1 | 後期 | 2 | 基礎系 | ・地球上にどのような環境問題があり、その中で人間がどのような役割をなしているかを説明できる。 ・世界および我が国における食糧の需給動向や安全性問題及び食糧関連の環境問題について説明できる。 | ◎ | | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ |

| 基礎教育科目 | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|--------|-----------|----|----|-----|-----|--|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然科学史 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・科学の歴史の概要を理解し、説明できる。 ・現代科学の特徴を理解し、説明できる。 ・科学的な手法を理解し、日常生活のなかで用い実践できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | △ | | |
| | 化学実験 | 1 | 後期 | 1 | 基礎系 | ・試薬、器具、機器の取り扱い、データの取り方、処理方法など基本的な実験技術が身につく。 ・実験結果を論理的に分析することにより、結論を導き出すことができる。 ・チームで協力、協働して課題に取り組み、実験の目的を達成することができる。 | | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | | |
| | 生物学入門 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・高校の生物IとII（生態学分野を除く）が理解でき、説明できる。 ・専門課程に必要な生物学の基礎的な知識レベルを理解し、それを補う自習学習の習慣が身につく、実践できる。 | ◎ | | | | ○ | | | ○ |
| | 化学入門 | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・必修化学の定期試験に合格できる。 ・化学反応の量的関係が説明できる。 ・モル濃度、%濃度、溶液の希釈に関する計算ができる。 ・基本的で重要な化学反応式が書けるようになる。 | ◎ | | | | ◎ | | | |
| | スタディ・スキルズ | 1 | 前期 | 1 | 基礎系 | ・論文の書き方を理解し説明できる。ディベートができる。 ・事実と意見の違いを理解し、区別できる。 ・大学生活にふさわしい時間管理、学修習慣を身につける。 | ○ | ◎ | △ | △ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | 情報処理論 | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | 本講義を通じて、 ・情報量を正しく理解、説明できる。 ・アナログ回路からどのようにしてデジタル回路ができたか、と同時にコンピュータの設計原理を理解して、説明できる。 ・BASIC言語を用いて簡単な統計処理のプログラムを作成できる。 | | | | | ◎ | ○ | ◎ | |
| | コンピュータ演習 | 1 | 前期 | 1 | 基礎系 | 本実習を受けることにより、学生は ・ワードプロセッサでレポートを作成することができ、そのレポートに、表計算ソフトを用いてグラフを挿入し、データの簡単な統計処理が行える。 ・プレゼンテーションソフトで自己紹介のプレゼンを作成、発表し自己表現の仕方を身につけて実践できる。 ・ホームページ作成により情報収集能力とコミュニケーション能力、さらに情報発信能力を身につけて実践できる。 | | | | | ◎ | ◎ | ○ | △ |
| | 基礎ゼミⅠ | 1 | 後期 | 1 | 基礎系 | ・知識を獲得する方法を理解でき実行できる。 ・知識を批判的に摂取し論理を構築できる。 ・そうして得た論理の要点をレポートとして表現できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | △ |
| | 基礎ゼミⅡ | 2 | 前期 | 1 | 基礎系 | ・動物応用科学で学ぶことの広がり理解し、説明できる。 ・動物応用科学が必要とされる社会的意義を理解し、説明できる。 ・卒業後になりたい姿を想像できる。 | ○ | ◎ | △ | △ | ○ | ◎ | △ | △ |
| | 基礎体育 | 1 | 通年 | ② | 基礎系 | ・生涯にわたって運動に親しみ、豊かな心、健やかな体づくりを通して、たくましく生きていくことができる。（笹本） ・生涯に渡って運動に親しみ、運動の効果を日常生活に生かすことができる。（野口） ・豊かな心、健やかな体づくりを通してたくましく生きていくことができる。（野口）（安彦）（山本）（小泉） ・生涯に渡って運動に親しみ、豊かな人生を送ることができる。（佐藤） ・乗馬を通し、健やかな体づくり、また、馬と接することにより心の安らぎも得ることができます。（宍岐） | | | | | ◎ | | | ○ |
| | 基礎科学英語 | 1 | 前期 | 2 | 基礎系 | ・細胞の簡単な仕組みから、哺乳動物の生体の各種名称・機構を英語で理解できる。 ・哺乳動物・生物に関する説明文についてこれ理解し、また簡潔に英語で説明できる。 ・病原微生物、動物保護、酪農畜産、遺伝子工学、伴侶としての動物などについての英文内容が理解できる。 | ◎ | ○ | △ | △ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 英語講義Ⅰ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・動物に関する簡潔な英文記事の内容を理解し、説明できる。 ・文の構造や文法事項を理解し、説明できる。 | △ | ◎ | | | ◎ | ○ | △ | △ |

| 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | |
|---------------|-----------|----|-----|-----|--|---|-----|-----|-----|-----------------------------|--|-----|-----|---|
| | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) | |
| | | | | | | 英作文表現Ⅰ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・生物学、環境科学、基本的な医学タームなど、語彙を習得する。正確な短文を構築する。 ・自ら発信できるようなテクニカル・フレーズを習得し、意見提示や説明文を提示できる。 | ◎ | ○ | △ |
| 総合・実用英語Ⅰ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・基礎的英語レベルのビデオ内容を、聴き、読み、理解できる。 ・簡単な英語表現・基礎的文法力で、色々なトピックに関して自分の意見や体験を話し伝えることができる。 ・ペアワーク・グループワークを通して、他者と協調・協働して問題解決が出来る。 ・読解スキル（主旨の把握、スキミング、スキヤニング、推測読み）や文法知識を活用して英文を効率的に読むことができる。 ・リスニング、ライティング演習を通して日常生活やアカデミックな場で用いられる英語表現ができる。 ・グループワークを通して他者と協調、協働して問題を解決していくことができる。 | ◎ | ○ | △ | △ | ○ | ◎ | △ | ○ | |
| 総合・実用英語Ⅱ | 2 | 前期 | ② | 基礎系 | ・TOEIC TOEFL 英検 IELTS 等の検定試験の英語を学習し、その内容を理解する。 ・ビジネス英語等で扱う実践的英語を理解できる。 ・ヒアリング等の音声学習を理解できる。 | ◎ | ○ | △ | △ | ○ | ◎ | △ | ○ | |
| 英語講読Ⅱ | 2 | 前期 | ② | 基礎系 | ・動物・医療・環境に関連する内容の英文について、構文を文法的に把握できる。 ・動物・医療・環境等に関連する英語の論説を1文ずつ正確に理解できる。 | ○ | ◎ | △ | △ | ◎ | ○ | △ | △ | |
| 英語講読Ⅲ | 2 | 後期 | ② | 基礎系 | ・生命科学・医療・環境・食糧等についての論説文を読みこれを理解することができる。 ・論説の内容について簡潔なコメントを発信できる。 ・難解な論説文を理解できる。 | ○ | ◎ | △ | △ | ◎ | ○ | △ | ○ | |
| 英作文表現Ⅱ | 2 | 後期 | ② | 基礎系 | ・複数の英文を組み、論旨のとおり英文を書くことができる。 ・論理的な文章を構築し、これに伴う語法を理解できる。 ・自分の意見・見解を明確化する英文を発信できる。 | ○ | ◎ | △ | △ | ○ | ○ | △ | ○ | |
| 中国語Ⅰ | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・中国語に関する基礎知識、発音、ピンインの綴り方、声調記号の付け方、簡単な文法や簡単な挨拶を覚え活用できる。 ・ピンインや漢字で書かれた学習した内容が読めて、理解できる。 ・簡単な日常の挨拶ができる。 | | ◎ | | | ◎ | | | | |
| ドイツ語Ⅰ | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・ドイツ語の初歩的な文法を理解し、簡単な文の読み書きや会話ができる。 ・異文化に関する知識と感受性を養い、人間と社会のあり方を理解してコミュニケーションできる。 | ○ | ◎ | | | | ◎ | | | |
| スペイン語Ⅰ | 1 | 前期 | ② | 基礎系 | ・自己紹介や人の描写、ならびに日常生活に関する基礎的な会話の受け答えを習得し、実践できる。 | ◎ | | | | ○ | | | | |
| 中国語Ⅱ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・中国語Ⅰに引き続き基本語彙と基礎文法を学習し、短い文づくりや簡単な挨拶、短い会話など初級のコミュニケーションができる。 | | ◎ | | | ◎ | | | | |
| ドイツ語Ⅱ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・ドイツ語の基本的な文法を把握し、初級レベルの文章の読解や作成、会話ができる。 ・異文化に関する知識と感受性を養い、人間と社会のあり方を理解してコミュニケーションできる。 | ○ | ◎ | | | | ◎ | | | |
| スペイン語Ⅱ | 1 | 後期 | ② | 基礎系 | ・現在形を使用する言い回しであれば、基本的な意思表現ができる。 | ◎ | | | | ○ | | | | |
| 専門基礎・ 共通科目 | 動物応用科学概論Ⅰ | 1 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・動物応用科学で学ぶことの広がり理解し、説明できる。 ・動物応用科学が必要とされる社会的意義を理解し、説明できる。 ・卒業後になりたい姿を想像できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 動物応用科学概論Ⅱ | 1 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・動物応用科学で学ぶことの広がり理解し、説明できる。 ・動物応用科学が必要とされる社会的意義を理解し、説明できる。 ・卒業後になりたい姿を想像できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 基礎動物保健学概論 | 1 | 後期 | ① | 専門共通系 | ・動物応用科学の各分野での動物保健学の意義を説明できる。 ・我が国で動物看護職や動物飼育担当者が動物の健康管理で担っている役割を説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| | 動物応用科学実習 | 1 | 前期 | 1 | 専門共通系 | ・飼育体験を通じて直接大型産業動物に触れることでこの学科の教育の根幹を理解し、説明できる。 ・生産物の衛生管理を理解し、実践できる。 ・動物と人間と環境の問題を多面的に考え、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | △ | △ | ◎ | ◎ | ○ |
| | 細胞生物学 | 1 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・分子レベル、個体レベル、集団レベルの生物学を学ぶ準備として、細胞の構造と機能の基本的事項を説明できる。 ・細胞分裂とシグナル伝達、発生と分化が説明できる。 | | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | |

| 専門基礎・共通科目 | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|-----------|------|----|----|-------|---|---------|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|--|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | | 遺伝生物学 | 1 | 後期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝率を用いて、多因子性の量的形質に対する遺伝要因の寄与を説明することができる。 ・メンデル遺伝学を理解し、各種遺伝現象を説明することができる。 ・染色体の構造異常によって生じる現象を説明することができる。 ・近親交配が何故問題となるのかを、近交係数を使って説明することができる。集団内の遺伝子頻度の変化を説明することができる。 | ◎ | |
| 分子生物学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・DNA（遺伝子）、RNA、タンパク質を中心とする分子レベルで生命現象を理解し説明できる。 ・遺伝子工学、発生工学の基盤となる技術や理論を理解し説明できる。 | | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| 生殖生物学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・生殖様式および生殖細胞について理解し、説明できる。 ・性決定について理解し、説明できる。 ・動物の生殖の特徴について理解し、説明できる。 | △ | △ | ◎ | ○ | ◎ | △ | △ | △ | |
| 微生物学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・微生物学を学ぶことで、生命の基本原則を理解し、説明できる。 ・突然変異の誘導、相同組み換え、形質転換、接合伝達、形質導入、逆転写酵素、RNAスプライシング、キャップ構造、IRES、疾患の原理とその制御を理解し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | ◎ | ◎ | |
| 動物機能解剖学Ⅰ | 1 | 前期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物（ウマ、ブタ、反芻類、イヌ、ウサギ、ヒト）の運動器の形態の違いと機能の違いを関連づけて理解し、説明できる。 ・神経系、循環器系、消化器系の形態・部位の名称を習得し、機能と関連づけて理解し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | | | |
| 動物機能解剖学Ⅱ | 1 | 後期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物（ウマ、ブタ、反芻類、イヌ、ウサギ、ヒト）の泌尿生殖系、内分泌系、及び感覚器系の形態・部位の名称を習得し、機能とを関連づけて理解し、説明できる。 ・組織学的なレベルで動物の体を理解し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | | | |
| 動物機能解剖学実習 | 1 | 後期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物機能解剖学Ⅰ・Ⅱの講義内容を基礎とし、肉眼解剖標本及び顕微鏡標本を実際に観察することによって立体的な形態、体内での各器官の位置関係、組織学的な構造を理解し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | | | |
| 動物発生学 | 2 | 前期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・動物を構成する組織や器官あるいは個体の発生過程を学習することにより、個体の発生、細胞・組織・器官の分化および成熟過程の調節のしくみを理解するための基礎知識を習得し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | | | |
| 動物生理学Ⅰ | 1 | 後期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・正常動物の細胞の機能や情報伝達、信号処理機構を説明できる。 ・栄養学や行動学など、正常な生体機能をもとに理解を深める学問の基盤を理解し、説明できる。 | ◎ | | | | | | | | |
| 動物生理学Ⅱ | 2 | 前期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・健全な動物の生命活動を機能ごとに説明できる。 ・各生理機能と器官の解剖学的特徴の関連が説明できる。 ・哺乳類の環境適応能力の高さについて理解し、自分の言葉で説明できる。 | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 動物生理学実習 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・血液性状の測定法を習得できる。測定した様々な血液性状から様々な体の状態を知ることができる。 ・伸張反射時の神経回路や骨格筋の反応について説明できる。 ・心電図の成り立ちと循環系の調節について説明できる。 ・感覚受容と個体差について説明できる。 | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | △ | |
| 動物生化学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・アミノ酸やタンパク質の溶液中における挙動が説明できる。 ・タンパク質の分析原理を説明できる。 ・酵素等の機能タンパク質の生体内での働きを説明できる。 ・生体内に取り込まれた栄養物質の代謝を説明できる。 | ◎ | | | ○ | ◎ | | | | |
| 動物生化学実習 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体内で活性を示すタンパク質の量的、質的解析方法を習得する事で、タンパク質やDNAの電気泳動をはじめとする様々な分子生物学的手法と遺伝子工学的手法を基礎から理解し、説明できる。 ・本実習の理解は3年次以降の実習をさらに深く理解し、実践できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 生物統計学演習 | 2 | 前期 | 1 | 専門共通系 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学データについて、適正に整理・解析し、その結果について正しく解釈・説明できる。 ・統計量および解析結果について、図表を用いて適正に視覚的に表現し、説明できる。 | ○ | ○ | | ◎ | | ◎ | | | |

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | |
|-------------|------------|----|----|-------|--|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|--|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) | |
| | 動物資源遺伝学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・生物資源とは何かを説明する事が出来る。 ・動物資源の種類と役割を説明する事が出来る。 ・動物資源がもつ形質を説明する事が出来る。 ・形質と遺伝情報の関係を説明する事が出来る。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | △ | ○ | ◎ | |
| | 動物繁殖学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・哺乳類の生殖のしくみを理解し、概説できる。 ・人工授精および胚移植についても説明でき、その応用についても展開できる。 | ○ | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | ○ | |
| 専門基礎・共通科目 | 動物発生工学 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | ・動物発生工学が可能となった基盤的知識と技術について理解し、説明できる。 ・初期胚への各種操作の実例を挙げて、その応用例と可能性について理解し、説明できる。 ・細胞への遺伝子導入の実例を挙げて、その応用例と可能性について理解し、説明できる。 | △ | △ | ◎ | ○ | ◎ | △ | △ | △ | |
| | 野生動物学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・生態学の基本概念を学び、説明できる。 ・種間関係の基本概念を学び、説明できる。 ・社会生物学の基本概念を学び、説明できる。 ・進化学の基本概念を学び、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | | | ◎ | |
| | 応用動物行動学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・行動の基本概念と発現機序、および応用動物行動学の意義と役割を理解し、説明できる。 ・生得行動と学習行動を理解し、具体的に説明できる。 ・行動の分類と類型化、および各種行動の適応的意義を理解し、説明できる。 | ◎ | | ○ | △ | ◎ | | | | |
| | 動物人間関係学 | 2 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・動物応用科学全般を学ぶ基盤として動物人間関係学はあることを理解し、説明できる。 ・「動物の人の健康への影響」、及び「人と動物のより良い共生」はこの学問分野の大きな課題であり、伴侶動物、野生動物、介在動物に関わる最先端の知識を理解し、説明できる。 ・動物の特性について理解し、「人の健康」の視点から説明できる。 ・伴侶動物と人の関係について理解し、説明できる。 ・野生動物と人の関係について理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| | 食品科学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・動物性食品として重要な牛乳と食肉について、生産や構成成分の特性に関する基礎知識を理解し、説明できる。 ・発酵乳製品を理解することで、プロバイオティクス（乳酸菌やビフィズス菌など）の有用性を理解し、説明できる。 | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | |
| | 動物資源経済学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・食と農と環境の関わりを理解し、説明できる。 ・食料問題を経済的な視点から説明できる。 ・社会科学の方法論を理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| | 動物福祉論 | 3 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・Animal welfareの考え方とAnimalrightsの考え方の共通点と相違点を理解し、説明できる。 ・Animal welfareの考え方の歴史的・社会的背景を理解し、説明できる。 ・Animal welfareの考え方に対応した各種飼育動物の適切な取り扱いを理解し、説明できる。 ・Animal welfareの行動学的評価について理解し、説明できる。 | ◎ | | ○ | △ | ◎ | | | | |
| | 動物病態学 | 2 | 後期 | 2 | 専門共通系 | ・形態学的観点から「疾病とは何か」を理解し、説明できる。 ・病因論、循環障害、退行性変化、炎症、代謝障害、腫瘍など総括的病変が個体全体に及ぼす影響について理解し、説明できる。 ・病変と機能との相互関係から生物の臨床病像の動態を判断し、生命科学系の多くの分野の学習に病理学の知識がその基礎となっていることを理解し、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | |
| | 動物関連法規 | 1 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・動物に関連する各種法規の概要を理解し、説明できる。 ・動物にかかわる者の社会的責任について理解し、説明できる。 ・動物を取り巻く国内外の社会情勢に目を向けることができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | |
| | 動物生命科学基礎実習 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | ・学生自らが手順書に従い実習課題を自ら実施することで、生命科学に関する理解を深め、目前で生じている反応を説明することができる。 ・実際に研究に必要な基礎的手技を体得できる。 ・実験から得られた結果を理解し、事前の予想や先行研究の結果と比較し、科学的意見を発表することができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 動物人間関係学基礎実習 | 2 | 前期 | 1 | 専門共通系 | ・動物人間関係学コースで学ぶ内容の自然科学データについて、適正に整理・解析し、その結果について、文献に照らして正しく解釈・説明できる。 ・さらに、自然科学データの統計量および解析結果について、図表を用いて適正に視覚的に表現し、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ◎ | | | | |

| 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|------------|----|----|-----|-------|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|---|-----|-----|
| | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | 動物栄養学 | 3 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・動物に必要な栄養素を理解し、説明できる。 ・栄養素の消化・吸収機構について、一般的な事柄だけでなく、動物種ごとの特徴についても理解し、説明できる。 | ◎ | |
| 動物飼養学 | 3 | 後期 | ② | 専門共通系 | ・ウシ・ブタ・ニワトリ・イヌ・ネコの動物種に給与する飼料原料の特性と栄養価の評価方法を理解し、説明できる。 ・それぞれの家畜種に特有の飼養管理方法を理解し、説明できる。 ・わが国の家畜生産の現状と課題を理解し、説明できる。 | ○ | | ◎ | | | | ◎ | ○ |
| 動物栄養学実習 | 4 | 前期 | ① | 専門共通系 | ・動物栄養学、動物飼養学で習得した知識について、実体験を通してより理解し、説明できる。 ・飼料の成分分析法を理解し、その栄養的価値を判断できる。 ・反芻動物における栄養素の代謝を理解し、説明できる。 | ○ | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | |
| 動物衛生学 | 3 | 前期 | 2 | 専門共通系 | ・動物の感染症と生産病について、疾病毎に原因、疫学、発病機構、診断法、治療法について体系的に説明できる。 ・動物の感染症を効果的に制御する方法として、一般的衛生管理マニュアル、農場のHACCP、飼養衛生管理基準、防疫対策要領、防疫指針、消毒剤、ワクチンプログラムについて総合的に説明できる。 | | | ◎ | ○ | | | ◎ | ○ |
| 動物衛生学実習 | 4 | 前期 | ① | 専門共通系 | ・家畜の細菌性、ウイルス性疾病の診断の流れと検査ポイントを説明できるようになる。 ・適切な培養条件下で、適切な選択培地を用いて、各種食中毒菌を分離、同定、解析し、有効な抗生物質を選定するまでの検査の流れを系統的に説明でき、行えるようになる。 | | | ◎ | ○ | | | ◎ | ○ |
| 公衆衛生学 | 4 | 前期 | ② | 専門共通系 | ・公衆衛生の基本的な考え方について理解し、関連した様々な問題に取り組むための公衆衛生活動について説明できる。 ・国民の健康増進、環境保全等について幅広く理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| 人と動物の共通感染症 | 4 | 前期 | ② | 専門共通系 | ・人と動物の共通感染症の定義を理解し、その伝播様式や発生要因について理解し、説明できる。 ・主なヒトと動物の共通感染症の病原体、感染経路、発生状況、ヒトと動物の症状、予防法を理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | | ◎ | ○ | | |
| 牧場実習 | 2 | 通年 | ② | 専門共通系 | ・産業動物の取扱を理解し、実践できる。 ・産業として動物を扱う際の、動物への理解と経営的な制約について説明できる。 ・実習レポート・ポスター発表により、実習で行ったことを客観的に理解し、他人に伝えることができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| キャリア形成論 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | ・動物応用科学から広がる職業について理解し、説明できる。 ・職業に就く際に必要な知識・技能・体力を理解し、説明できる。 ・就職までに必要な大学での勉学のあり方を理解し、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| インターンシップ | 3 | 通年 | ② | 専門共通系 | ・就業体験を通じて実際の現場を理解し、説明できる。 ・大学で学んできた知識や技術をインターン先で発揮した後、自分の足りない部分を再確認し自己評価ができる。 | | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ | ○ |
| 専門ゼミ | 3 | 通年 | 2 | 専門共通系 | ・専門領域の深さと広がりを理解し、説明できる。 ・専門領域の最新情報を収集し、説明できる。 ・専門の内容を読解しまとめて発表できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 科学の伝達 | 4 | 通年 | ② | 専門共通系 | ・専門領域の深さと広がりを理解し、説明できる。 ・専門領域の最新情報を収集し、説明できる。 ・専門の内容を読解しまとめて発表できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 卒業論文 | 4 | 後期 | 6 | 専門共通系 | ・専門領域で課題を発見し、説明できる。 ・発見した課題を解決できる。 ・課題発見から解決までの研究を主体的に行うことができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 社会調査論 | 2 | 後期 | 1 | 専門共通系 | ・社会調査の諸形態について理解し説明することができる。 ・社会調査の結果として報告される事実について、どのような手続きや方法が用いられたか理解し、説明することができる。 ・社会調査において、プライバシーや個人情報はどうのように扱われるべきか学び、より良い社会調査への関わり方を理解し、説明することができる。 | ◎ | ○ | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 動物分子生殖科学 | 3 | 前期 | ② | 専門共通系 | ・哺乳類の生殖現象(卵の活性化、精子の受精能獲得、母体の妊娠認識、分娩発来)を分子レベルで理解して、概説できる。 さらに鳥類の生殖の特徴についても説明できる。 | ○ | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | ○ |

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|---------------------|----------------|----|----|-----|---------|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | 食品機能学 | 3 | 前期 | ② | 専門共通系 | ・ヒトは長い歴史の中で、様々なものを食してきたが、その機能性や効能について、科学的な根拠のある内容について理解し、説明できる。 | ◎ | | △ | | ◎ | | ◎ | ◎ |
| | 進化・集団遺伝学 | 3 | 後期 | ② | 専門共通系 | ・地質年代と生物の系統発生との対応を理解し概説することができる。 ・ダーウィンが種の起源の中で唱えた自然選択説と性選択説を個体の適応度をキーワードとして説明できる。 ・遺伝子浮動をキーワードとして中立説を理解し、説明することができる。 ・集団間の遺伝的分化を集団間のF _{st} を用いて説明することができる。 | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ |
| | 動物薬理学 | 4 | 前期 | ② | 専門共通系 | ・薬物の薬理作用と作用機序について理解し説明できる。 ・薬物の体内動態について理解し説明できる。 ・医薬品の開発と規制について理解し説明できる。 ・薬物のリスクとベネフィットについて理解し説明できる。 | ◎ | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | |
| | 家畜管理学 | 3 | 後期 | ② | 専門共通系 | ・牛の生産管理技術について理解し、説明できる。 ・牛の飼養衛生管理技術（農場HACCP）について理解し、説明できる。 ・畜産環境管理技術について理解し、説明できる。 | △ | △ | ○ | ◎ | △ | △ | △ | ◎ |
| 専門科目 (動物生命科学コース) | 動物遺伝・育種学 | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・形質とは何かを説明する事が出来る。 ・形質の発現機序を説明する事が出来る。 ・優良動物とは何かを説明する事が出来る。 ・優良動物の生産方法と背景を説明する事が出来る。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 動物遺伝育種学実習 | 3 | 前期 | ① | 動物生命科学系 | ・遺伝資源の多様性を理解することで、現在利用されている家畜家禽の生産性のさらなる向上にはどのような形質に着目すればよいか、考え方を説明することができる。 ・集団中での対立遺伝子の動態を理解する事により、形質に着目した選抜育種を行うための数理学的なモデルを様々な遺伝資源に対して立案できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 動物遺伝子工学 | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・遺伝子工学に関する各種技術の原理を正しく説明することができる。 ・文献の中に記載されている各種研究に用いられた手法を、理解し説明することができる。 ・研究目的を達成するために利用するべき遺伝子工学関連技術の組み合わせを、適切な順番で選択することができる。 ・医療における遺伝子工学の実例を説明することができる。 | △ | △ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | △ | ○ |
| | 細胞培養工学 | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・細胞培養および細胞工学に関する各種技術の原理と目的を理解し、実例を用いて説明できる。 ・シグナルに対する細胞応答の概要を実例に則して説明できる。 ・細胞と細胞外マトリクスとの相互作用を説明できる。 ・細胞源としての幹細胞の実例を挙げて特徴と活用を説明できる。 | △ | △ | ○ | ◎ | ○ | ○ | △ | ◎ |
| | 動物工学実習 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・実験動物から組織を抽出し、RNAを抽出し、RT-PCR法を用いた遺伝子発現解析を実行できると同時に、各手順の意味を説明することができる。 ・実習に用いた分析機器を適切に取り扱うことができると同時に、測定原理を説明することができる。 ・遺伝子工学に利用される各種試薬品を安全に取り扱うことができる。 ・実習の結果を統合し、異なる遺伝子の発現様式と肝臓の再生を説明することができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | 動物分子免疫学 | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・免疫系を構成する細胞・組織について学び、動物種によっては組織機能に差異がある場合があることを理解し、説明できる。 ・抗原受容体の多様性が生み出される機序や自己・非自己を識別して非自己を体内から排除する機構について学び、動物種によっては機構が異なる場合があることを理解し、説明できる。 ・獲得免疫および自然免疫機構について理解し、説明できる。 | ◎ | △ | △ | ○ | ◎ | △ | △ | ○ |
| | 分子細胞生物学 | 3 | 後期 | ② | 動物生命科学系 | ・分子細胞生物学で用いられる主な実験方法について理解し、説明できる。 ・細胞のシグナル伝達と応答の概要について理解し、説明できる。 ・細胞のガン化の概要について理解し、説明できる。 ・細胞の構造と細胞分裂について理解し、説明できる。 | △ | △ | ○ | ◎ | ○ | ○ | △ | ◎ |
| | バイオインフォマティクス演習 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・必要とする情報を得るために利用するべきデータベースを適切に選択できる。 ・各種データベースの分析ツールの内容を理解し正しく操作することができる。 ・各回の演習内容の意味を理解し、複数のデータベースを組み合わせた分析が実行できる。 ・データベースより取得したDNA塩基配列を編集し、相同性の比較や系統樹の作成を実行できる。 | △ | △ | ○ | ◎ | △ | ◎ | △ | ○ |

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|---------------------|-------------|----|----|-----|---------|---|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | 動物受精卵移植論 | 3 | 後期 | ② | 動物生命科学系 | ・胚(受精卵)移植およびその関連技術(卵および胚の超低温保存、体外受精、顕微授精、核移植、遺伝子組換え個体作出など)を説明できる。 | ○ | △ | ○ | ◎ | △ | ○ | △ | ◎ |
| | 動物生殖制御論 | 4 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・動物の生殖制御に関する生命科学を学習し、さらに生殖制御を通しヒトと動物の関係を学び、専門技術を活用し人間社会に貢献できる。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | △ | ○ | △ | ◎ |
| | 動物繁殖学実習 | 3 | 前期 | ① | 動物生命科学系 | ・哺乳類の生殖のしくみを理解して概説できる。 ・人工授精、胚移植および関連技術についても説明できその応用について展開できる。 ・精子・卵および胚を体外で適切に扱うことができる。 | ○ | △ | ○ | ◎ | △ | ○ | △ | ◎ |
| | 家畜人工授精特別実習 | 4 | 前期 | ① | 動物生命科学系 | ・ウシの人工授精を説明でき、さらに直腸膣法による人工授精が実行できる。 | ○ | △ | ○ | ◎ | △ | ◎ | △ | ○ |
| | 実験動物学 | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・実験動物を対象として、3R's、動物福祉、関連法規について説明できる。 ・実験動物の微生物コントロール、環境コントロール、遺伝コントロールおよびこれらのモニタリング方法等について説明できる。 ・比較生物学的視点から各実験動物の特性(種差、系統差、疾患モデル、遺伝子改変モデル等)について説明できる。 ・科学的かつ倫理的動物実験を実践できる。 | ◎ | ○ | ○ | △ | ○ | ◎ | △ | △ |
| | 実験動物学実習 | 3 | 前期 | ① | 動物生命科学系 | ・マウス・ラット・モルモット・ウサギの安全な取り扱いや、適切な管理方法、採血法や投与方法について実務的、かつ失敗なく行うテクニックを実践できる。 ・マウス・ラット・モルモット・ウサギに対し、簡単な実験外科的処置や解剖を行うとともに、あわせて麻酔法、安楽死法などについて学習し、適正な動物実験、痛みの評価、苦痛のコントロールなど「科学的かつ倫理的動物実験」を実践できる。 | ◎ | ○ | ○ | △ | ◎ | ○ | △ | △ |
| 専門科目 (動物生命科学コース) | 微生物機能科学 | 3 | 後期 | ② | 動物生命科学系 | ・微生物を用いた物づくりや環境浄化への利用について理解し、説明できる。 ・微生物のバイオリソースとしての重要性も理解し、説明できる。 | ◎ | △ | △ | △ | ○ | △ | ◎ | ○ |
| | 食品製造学 | 3 | 後期 | ② | 動物生命科学系 | ・動物性食品、特に食肉製品、卵製品を中心に、原料特性、栄養機能性、製品種類、製造方法、貯蔵に至るまでを理解し、理論的に説明できる。 ・エコロジー、食品リサイクルの面から、畜産廃棄物の有効利用について説明できる。 | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ | △ | ○ | ◎ |
| | 食品科学実習 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・動物性食品原料(牛乳・食肉)の品質特性や加工技術などを理解し、説明できる。 ・牛乳、食肉を用いた製品加工、その品質管理の基本教育を体得し、自らも実践できる。 | ○ | ○ | ◎ | △ | △ | ◎ | ○ | ◎ |
| | 食品衛生学 | 4 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・食品に含まれる有害物質の種類や特徴、健康被害を防止する方法などの基礎的事項を説明できる。 ・今後の自らの仕事や食生活において、得た知識を活用することができる。 | ○ | △ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | △ | ◎ |
| | 機器分析化学 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・有害物質の分析及び分離分析に用いられる機器の原理、構造、応用例および試料の前処理について理解し、説明できる。 | △ | △ | ◎ | ○ | ○ | ○ | △ | ◎ |
| | 機器分析化学実習 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・各機器の原理を理解し、説明できる。 ・試料の前処理や定量方法など、その機器を使用するにあたって、関連する事項の説明ができる。 ・機器の特質を理解し、注目する物質を定量するには、どの様な機器を使用しなければならないかを選択し実践できる。 | △ | △ | ○ | ◎ | ○ | ○ | △ | ◎ |
| | 動物トキシコロジーⅠ | 3 | 前期 | ② | 動物生命科学系 | ・毒性学の基本的な原則を理解し、化学物質や天然物質による代表的な毒性発現機序を説明できる。 ・化学物質や天然物質の示す毒性を予測し、それを未然に防止する過程を説明できる。 | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | △ | ○ |
| | 動物トキシコロジーⅡ | 3 | 後期 | ② | 動物生命科学系 | ・化学物質や天然物質の安全性確保の仕組みについて理解し、解説できる。 ・器官別にまた機能別に代表的な毒性発現機序を理解し、説明できる。 | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | 動物トキシコロジー実習 | 3 | 後期 | ① | 動物生命科学系 | ・安全性を評価するための試験計画の立案、生体機能に対する有害性の評価方法を理解し、その理論的背景を説明できる。 ・化学物質による健康影響評価を行うための簡単な試験操作ができる。 | △ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | △ | △ | ◎ |

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|----------------------|--------------|----|----|-----|----------|--|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門科目 (動物人間関係学コース) | 動物行動神経科学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・動物の行動の発現制御に関わる神経メカニズムを理解し、説明できる。 ・経験やホルモンによる行動変化について学習し説明できる。 ・動物の感覚受容について学習し説明できる。 | ◎ | | | ○ | ◎ | | | |
| | 動物行動治療学 | 3 | 後期 | ② | 動物人間関係学系 | ・生態学を基礎とした動物の行動理論を理解し、説明できる。 ・問題行動の分類と測定手法を身につけ、実践できる。 ・学習理論を中心とした対処方法を理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ |
| | 動物健康管理学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・人間社会に身近な伴侶動物を中心として、様々な疾患の病因を理解し、説明できる。 ・伴侶動物の疾患の早期発見方法を説明できる。 ・治療後の管理を包括的に学習し、説明できる。 | ◎ | | ○ | | ◎ | ○ | | △ |
| | 犬学・猫学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | 犬・猫など動物の特性を最大限に活用する動物介在療法／教育／活動（AAT/AAE/AAA）が適切に実践できる基礎を築く。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | 馬学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・アニマルアシステッドセラピーに最適な馬とは何かを考えることができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | 医学概論 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・さまざまな対象者のうち、効果が期待できる対象者を選び、最適な取り組みが何であるか、自ら答えを出すことができる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| | 動物介在活動・療法演習Ⅰ | 3 | 前期 | ① | 動物人間関係学系 | ・さまざまな対象者を想定し、最良のプログラムが構築することができる。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | 動物介在活動・療法演習Ⅱ | 3 | 後期 | ① | 動物人間関係学系 | ・さまざまな対象者のなかで、現代医学による治療よりも動物介在療法の方がより適している者がいる。一方、逆に、動物介在療法によって、悪化する者も存在する。動物介在療法において、どのような者に改善が見込めるか、判断できる。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | 応用動物心理学実習Ⅰ | 3 | 前期 | ① | 動物人間関係学系 | ・飼育放棄された犬を用いて、一般家庭内での飼育に適する行動への修正方法を理解し、説明できる。 ・里親さん探しを通じて、うまく社会と関わることができる。 ・グループワークをすることによる、共同作業や情報の管理伝達手法を理解し、説明できる。 | △ | ○ | ○ | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ |
| | 応用動物心理学実習Ⅱ | 3 | 後期 | ① | 動物人間関係学系 | ・飼育放棄された犬を用いて、一般家庭内での飼育に適する行動への修正方法を理解し、説明できる。 ・里親さん探しを通じて、うまく社会と関わることができる。 ・グループワークをすることによる、共同作業や情報の管理伝達手法を理解し、説明できる。 | △ | ○ | ○ | ◎ | △ | ○ | ○ | ◎ |
| | 動物行動管理学実習 | 3 | 後期 | ① | 動物人間関係学系 | ・応用動物（産業動物、愛護動物、展示動物）の飼育管理・ハンドリングの実践的手法が身につく、実践できる。 ・育種改良された動物種とそうでない動物種によるハンドリング上の違いについて理解し、説明できる。 ・動物の福祉的飼育法について科学的に評価し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| | 動物発達行動学実習 | 4 | 通年 | ① | 動物人間関係学系 | ・盲導犬を対象として、犬の行動発達に関する科学的知識が身につく、説明できる。 ・盲導犬育成のための実践的支援活動の手法が身につく、実践できる。 ・盲導犬育成の新たな助法の発見に向けた解析手法が身につく、実践できる。 | △ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ | ○ |
| | 乗馬応用実習Ⅰ | 3 | 前期 | ① | 動物人間関係学系 | ・馬の良さを知るとともに、馬を用いた動物介在活動・療法などにおけるストレスを評価することができる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |

| | 授業科目 | 年次 | 学期 | 単位数 | 系 | 科目の到達目標 | ディプロマ・ポリシー (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | | 学士力 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連) | | | |
|----------------------|-------------|----|----|-----|----------|--|------------------------------------|-----|-----|-----|-----------------------------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) | (4) |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門科目 (動物人間関係学コース) | 乗馬応用実習Ⅱ | 3 | 後期 | ① | 動物人間関係学系 | ・具体的な対象者に対して、馬を用いた動物介在介入を実施し、同時に馬への負担について説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| | 動物行動生態学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・さまざまな動物行動について、その機能について理解し、説明できる。 ・これらの機能が生物進化と関係していることを理解し、説明できる。 ・動物の行動や進化を貫く法則性があることを理解し、説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ |
| | 野生動物管理学 | 3 | 前期 | ② | 動物人間関係学系 | ・野生動物管理の現場の状況を説明できる。 ・保護、保全、管理などの概念を理解し、説明できる。 ・野生動物管理の知識や技術を習得し、説明できる。 ・野生動物管理についての社会要請に応えるための知識や技術を説明できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | 保全生態学 | 3 | 後期 | ② | 動物人間関係学系 | ・保全や野生動物管理の現場を理解し、さまざまな立場の考え方があることを説明できる。 ・科学的な立場の重要性を説明できる。 ・保全生態学と野生動物管理学の概念と知識を習得し、説明できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | 生物分類学・動物園概論 | 3 | 後期 | ② | 動物人間関係学系 | ・生物分類学の考え方を理解し、説明できる。 ・人為分類と自然分類の違いを理解し、説明できる。 ・生物の進化の歴史を説明できる。 ・動物園の歴史、教育機能、動物園側の実態などが説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 野生動物調査演習 | 3 | 後期 | ① | 動物人間関係学系 | ・野生動物調査法を修得し、説明できる。 ・動物の計測、食性分析、群集の多様度、類似度などの指標を修得し、説明できる。 ・動物の行動解析法を修得し、説明できる。 ・成果の発表技術を習得し、発表できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ | ○ |
| | 野生動物学野外演習 | 3 | 前期 | ① | 動物人間関係学系 | ・野生動物調査法を修得し、説明できる。 ・地図の読み方、GPS、双眼鏡の使用法を修得し、説明できる。 ・野生動物の痕跡から情報の読みとりを修得し、説明できる。 ・群落調査、個体数推定などの方法を修得し、説明できる。 | ○ | ○ | ◎ | ○ | △ | ○ | ◎ | ○ |